

地域的な課題など

(居住地区のまちづくりの目標)

	湯本地域	宮ノ下地域	宮城野地域	仙石原地域	箱根地域
住宅地と自然環境の調和	① 51.5	① 44.8	① 54.1	① 60.5	① 39.8
観光、商業施設、一般住宅の共存	③ 35.7	③ 35.8	② 35.9	② 33.0	③ 33.0
温泉情緒あふれるまち	② 39.8	② 40.3	③ 33.5	⑤ 18.1	② 35.2
観光地としてにぎやかなまち	④ 24.0	④ 29.9	④ 20.0	④ 20.0	③ 33.0
静かな雰囲気のある別荘保養地	3.5	4.5	⑤ 15.3	③ 26.0	⑤ 13.6
レジャー施設中心のまち	9.4	⑤ 11.9	8.2	9.8	⑤ 13.6
商業施設の集積や都市機能の充実	⑤ 11.7	10.4	11.8	7.9	5.7
閑静な戸建住宅地	8.2	7.5	9.4	8.8	5.7
都市型住宅を中心としたまち	1.8	1.5	1.2	0.9	0.0

アンケート調査のなかでの具体的な意見、提言のほか、昨年実施した「まちづくり懇談会」での意見や要望など、地域別にまとめました。

湯本地域

身体障がい者などにもやさしい観光地づくり
吊橋、山道の観光散策路整備
湯本駅のバリアフリー化
湯本駅前整備
公共下水道の整備
など

宮ノ下地域

宮ノ下し尿処理施設の老朽化
公共下水道の整備
宮ノ下交差点の歩道整備
主要国道への歩道設置、桜並木化
など

宮城野地域

彫刻の森駅のバリアフリー化
碓氷橋架け替え、歩道設置
廃家屋などの景観保全
さくら館での出張所業務代行
など

仙石原地域

マンション、美術館の建設抑制、高さ制限
すずき草原への歩道、遊歩道の設置
明神林道の通行規制緩和
旧保育園跡地の有効利用(公園、トイレ整備
など)
建設資材置き場などの景観保全
など

箱根地域

災害避難場所としての元箱根公民館の老朽化
廃家屋などの景観保全
湖畔への街路樹植栽
観光客滞留のための環境整備
など

「まちづくり懇談会」の開催について

アンケート調査などの結果をもとに、将来のまちづくりについて町民の皆さんと意見交換を行うため、次のとおり「まちづくり懇談会」を開催します。ご参加ください。
なお、参加される方は、この「広報はこね」8月号(7ページから10ページまで)を持参してください。
また、今後も、町政運営や各種の行政課題について、町民の皆さんとの意見交換の場として「まちづくり懇談会」を開催します。町民の皆さんからの要請に対しても開催するようにしますので、ご相談ください。

8月9日(火) 仙石原文化センター
8月10日(水) 宮城野公民館
8月11日(木) 元箱根公民館
8月12日(金) 温泉公民館
8月17日(水) 役場分庁舎
開催時間は、各会場とも19時から20時30分までです。
照会先 企画課
☎ 5・9560

本年も「箱根をきれいに美しく」のスローガンをかけて、観光客が多く訪れるこの夏(8月中)に、美化運動を県と町が共催で実施することになりました。皆さま方の御支援、御協力を願います。



「たくましく働く看護師さんたちにお手伝いいただいて、お陰で笑ったり泣いたり、驚かされたり、そういうかけがえのない経験を経て勉強です」と微笑む黒川さん。さら更には「できる限りつけていきたいです」
心強いお言葉戴きました。益々のご活躍を期待しています。
黒川さん、お体大切に、
まちかどレポーター
真利子栄子



広報でめぐる箱根「トキメキ時間旅行」
今年も8月8日(月)に、美化大会と全町一斉美化清掃が行われます。(関連記事4ページ)が、今回は昭和41年当時の運動をふりかえります。
(記事から抜粋)
最近の統計資料により、箱根を訪れる観光客は、春、秋の行楽シーズンよりも夏の七月、八月に訪れる観光客の方が、はるかに多くなっています。
町が、美化運動を提唱して5年目を迎えました。最近では、「箱根をきれいに美しく」は、町民の合言葉になってきました。これもひとえに町民皆さま方の理解と協力の賜ものと感謝します。この成果をこのまま今後もたずなをゆるめることなく、美化思想が公德心として身につくまで運動を続けることが、目的達成の一番近道であると考えます。

当時は「箱根をきれいに美しく」が、町民皆さんの合い言葉となるほど定着していたようですね。現在はどうかでしょうか？
今年の全町一斉美化清掃は8月8日に実施します。皆さんもこの機会に、地域の清掃に汗を流していただき、清潔で美しい郷土、すがすがしい箱根を守り、そしてもう一度、「箱根をきれいに美しく」を皆さんの合い言葉としましょうか。

「縄文時代中期の土器は縄模様ではなく細い紐を丁寧に積み重ねたような細かな細工のものなんです。何故そんな手間のかかるものを作っていたのか不思議に思いませんか？」楽しそうに話されているのは、黒川淳さん。
学生時代に考古学を勉強され、発掘土器を復元、調査していくうちに土器の魅力にひかれ、陶芸家を志されたのだそうです。現在は仙石原に窯を開かれています。
そんな黒川さんが陶芸の楽しさを少しでも多くの方に伝えたいとボランティア活動をされています。

そんなお忙しい日々のなかで力を注がれているもう一つの活動は、重度障がい者療養施設での陶芸教室です。さまざまな障がいを持つ子どもたちは、看護師さんや黒川さんの手を借りて作品を作り上げるのです。完成した作品を看護師さんにプレゼントしたいと、自分の名前を刻んで欲しいと言いつつも、子もいるそうです。発表会も年に一度開かれていて、今度お尋ねしてみようと思えました。
教室を始めたころは、子どもたちが喜んでくれている事が分からず不安で、やめようと思ったことも。そんな時、ひとりの看護師さんから「陶芸教室のある日は子どもたちの様子がいつもと少し違うように感じますよ」と聞いた時、頑張ってきたよかったですと思われたそうです。
「たくましく働く看護師さんたちにお手伝いいただいて、お陰で笑ったり泣いたり、驚かされたり、そういうかけがえのない経験を経て勉強です」と微笑む黒川さん。さら更には「できる限りつけていきたいです」
心強いお言葉戴きました。益々のご活躍を期待しています。
黒川さん、お体大切に、
まちかどレポーター
真利子栄子